

砂糖の国際需給

調査情報部 福寿 悠星、峯岸 啓之

1 世界の砂糖需給（2025年3月時点予測）

図 絵で見る世界の地域別砂糖需給（2024/25年度予測値）

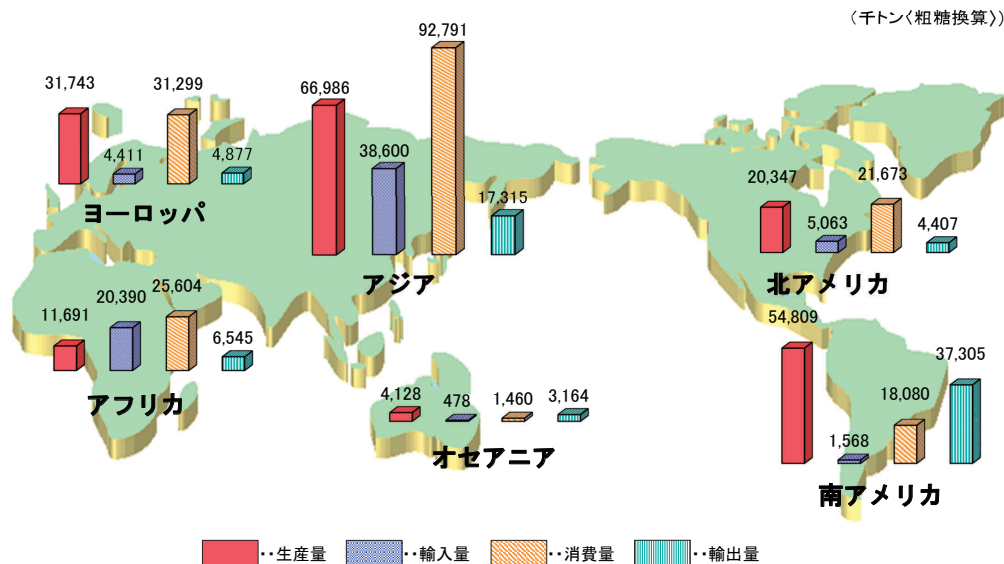


表 世界の砂糖需給の推移

(単位：千トン 〈粗糖換算〉、%)

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1994/95	47,748	116,773	31,659	112,814	32,490	50,876	45.1
1999/00	67,552	133,221	36,647	127,777	39,765	69,879	54.7
2004/05	70,855	144,263	47,191	146,617	50,893	64,799	44.2
2009/10	63,986	159,903	55,868	164,431	56,003	59,324	36.1
2014/15	75,556	183,661	60,956	176,956	62,498	80,720	45.6
2019/20	90,031	181,776	69,495	182,840	71,621	86,841	47.5
2020/21	86,841	181,965	66,801	185,409	67,987	82,211	44.3
2021/22	82,211	186,262	69,260	188,619	71,048	78,066	41.4
2022/23	78,066	190,615	70,823	190,856	71,081	77,566	40.6
2023/24	77,566	195,808	76,462	191,071	77,291	81,474	42.6
2024/25 (2025年3月予測)	81,474	189,705	70,510	190,908	73,612	77,169	40.4

資料：GlobalData UK Ltd. 「Quarterly Statistical Update, March 2025」
注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。
注2：2022/23年度および2023/24年度の数値は推定値、2024/25年度の数値は予測値。
注3：期末在庫量は（期首在庫量＋生産量＋輸入量－消費量－輸出量）。
注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

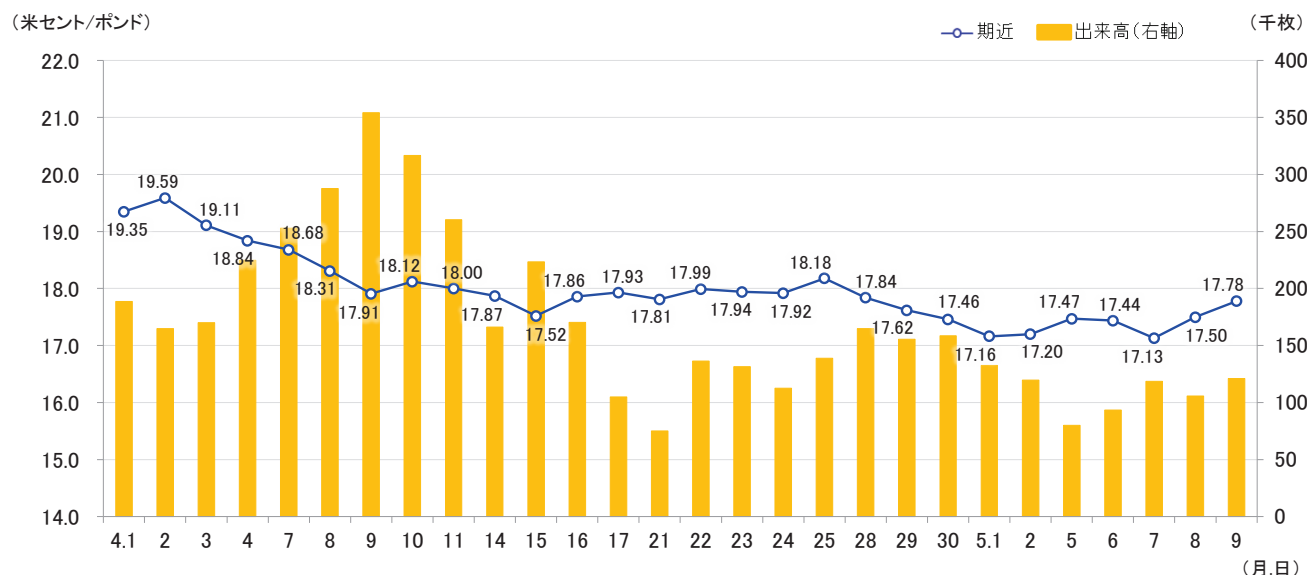
「世界の砂糖需給」および「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの更新となっていますので、次回は2025年7月号の掲載となります。直近の内容は2025年4月号をご参照ください。
「世界の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_003318.html
「主要国の砂糖需給」：https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_003319.html

2 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き（4/1～5/9）

～米国の相互関税導入やブラジル産砂糖の増産予測で下落～

図 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所
注：期近5月限の値。

2025年4月のニューヨーク粗糖先物相場（5月^{がつ}限）の推移を見ると、1日はレアル高（注1）などにより前取引日から上昇し、2日は1ポンド当たり19.59セント（注2）とさらに上昇した。3日以降は、米国の相互関税導入発表に伴う景気後退懸念からの原油安（注3）などにより下落し、9日は同17.91セントをつけた。10日は9日に米国の相互関税導入の一時停止の発表がされたことで同18.12セントと上昇したが、11日以降は、関税の引き上げに伴う世界経済の成長鈍化による砂糖需要減少への懸念から再び下落し、15日は同17.52セントをつけた。16日以降は、ドル安とインド産砂糖の生産量減少により上昇に転じたが、24日まではほぼ横ばいで推移した。25日はブラジルの乾燥した天候によるサトウキビ収量低下への懸念から同18.18セントと上昇したが、28日以降は、ブラジル産砂糖の生産量増加予測により下落傾向となり、30日は同

17.46セントをつけた。

5月に入ると、1日は引き続きブラジル産砂糖の生産量増加予測から同17.16セントと下落し、2日以降は、ドル安で緩やかな上昇となった。6日以降は、ブラジル産砂糖の生産量増加予測で下落するも、8日以降は、原油高により上昇し、9日は同17.78セントをつけた。

（注1）粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが上昇すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が弱まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が低下すると、需給のひっ迫につながることから、価格を押し上げる方向に作用する。

（注2）1ポンドは約453.6グラム、1米セントは1米ドルの100分の1。

（注3）一般に、原油価格が下落すると、石油の代替燃料であるバイオエタノールの需要は減少する。バイオエタノールの需要減少により、その原料作物（サトウキビ、てん菜など）のバイオエタノール生産

への仕向けが減る一方、それらから生産される食品（サトウキビの場合は砂糖）の生産・供給が増えると想定される。食品用途仕向けの度合いが大

きくなるほど需給が緩和し、当該食品の価格を押し下げる方向に作用する。

3 世界の砂糖需給に影響する各国の動向（2025年5月時点予測）

ブラジル

2025/26年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】	【砂糖（甘しや糖）】
収穫面積：874万ha（前年度比1.6%減）	生産量：4738万トン（同0.4%増）
生産量：6億4250万トン（同5.2%減）	輸出量：3610万トン（同0.8%減）

2025/26年度のサトウキビ生産量はやや減少を見込む

2025/26年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、1月から3月の降水量が平均を下回ったことや圃場の更新により、874万ヘクタール（前年度比1.6%減）とわずかな減少が見込まれている（表）。サトウキビ生産量は、前年度に主産地の中南部地域で発生した干ばつや火災の影響を受け、6億4250万トン（同5.2%減）とやや減少が見込まれ

ている。

砂糖生産量は、サトウキビが減産見込みであるものの、製糖企業がサトウキビの砂糖仕向け割合を増加させるとの見通しから、4738万トン（同0.4%増）とわずかに増加が見込まれている。砂糖輸出量は、3610万トン（同0.8%減）とわずかな減少が見込まれているが、引き続き国際市場でのブラジル産砂糖に対する堅調な需要が見込まれている。

表 ブラジルの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、％）

年度		2022/23	2023/24	2024/25	2025/26 （4月予測）	2025/26 （5月予測）	前年度比 （増減率）
サトウキビ収穫面積		8,421	8,408	8,884	8,738	8,738	▲ 1.6%
サトウキビ生産量		606,676	713,134	677,500	642,500	642,500	▲ 5.2%
砂糖	生産量	39,700	49,320	47,190	47,640	47,380	0.4%
	輸入量	2	5	4	4	4	22.2%
	消費量	10,928	10,965	10,800	10,864	10,864	0.6%
	輸出量	28,985	37,678	36,384	36,356	36,096	▲ 0.8%
	期末在庫量	1,945	2,627	2,636	2,986	3,060	16.1%
	期末在庫率	4.9	5.4	5.6	6.3	6.5	0.9ポイント増

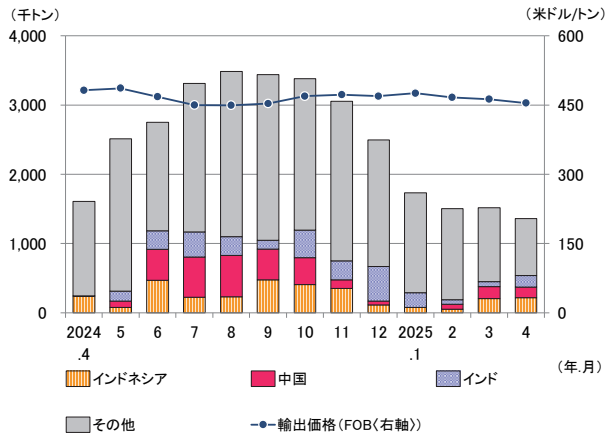
資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2025」

注1：2023/24年度および2024/25年度の数値は推定値、2025/26年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸出量および輸出価格の推移

粗糖

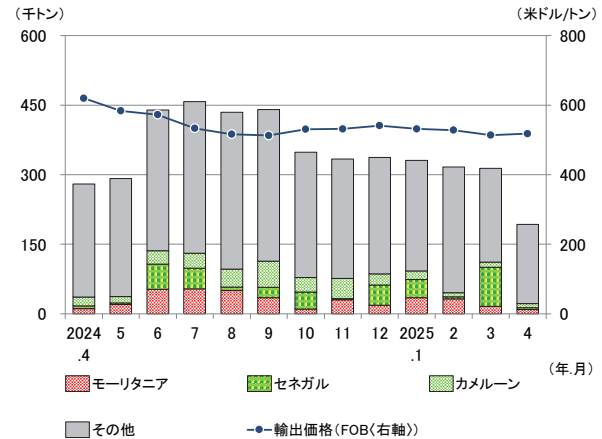


資料: 「Global Trade Atlas」

注1: HSコード1701.14 (粗糖) および1701.99 (精製糖) の数値。

注2: 輸出量は、直近13カ月 (累計) の上位3カ国・地域を表示。

精製糖



インド

2024/25年度 (10月～翌9月) の見通し

【サトウキビ】

収穫面積: 503万ha (前年度比9.3%減)

生産量: 3億9470万トン (同11.3%減)

【砂糖 (甘しや糖)】

生産量: 2795万トン (同19.4%減)

輸出量: 362万トン (同17.4%減)

2024/25年度の砂糖生産量および輸出量は大幅に減少する見込み

2024/25年度 (10月～翌9月) のサトウキビ収穫面積は、主産地での競合作物への転作などから503万ヘクタール (前年度比9.3%減) とかなりの程度減少が見込まれている (表)。サトウキビ生産量は、干ばつと一部地域で発生した赤腐病 (red rot) (注1) の影響により、3億9470万トン (同11.3%減) とかなり大きく減少が見込まれている。

砂糖生産量は、サトウキビの減産とエタノールへの転用により、2795万トン (同19.4%減) と大幅な減少が見込まれている。主産地のマハラシュトラ州では4月末時点で1工場を除いて操業が終了し、ウッタル・プラデーシュ州では11工場が操業中であるが、両州での砂糖生産量は前年度を下回る

と見込まれている。砂糖輸出量は、砂糖の減産や輸出制限の継続により、362万トン (同17.4%減) と2年連続で大幅な減少が見込まれている。

インド政府は25年1月、国内余剰在庫の解消などを目的に100万トンの砂糖輸出を許可した (注2)。現地報道によると、4月30日までに100万トンの輸出割当量のうち、42万4000トンがアフリカやアジア地域に輸出されている。

(注1) 真菌の感染によって引き起こされ、茎の内部の腐敗や褐変により、サトウキビの単収や砂糖の回収率に深刻な影響を及ぼすとされる。

(注2) 詳細については、2025年1月24日付け海外情報「インド政府が100万トンの砂糖輸出を許可 (インド)」<https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004013.html>をご参照ください。

表 インドの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

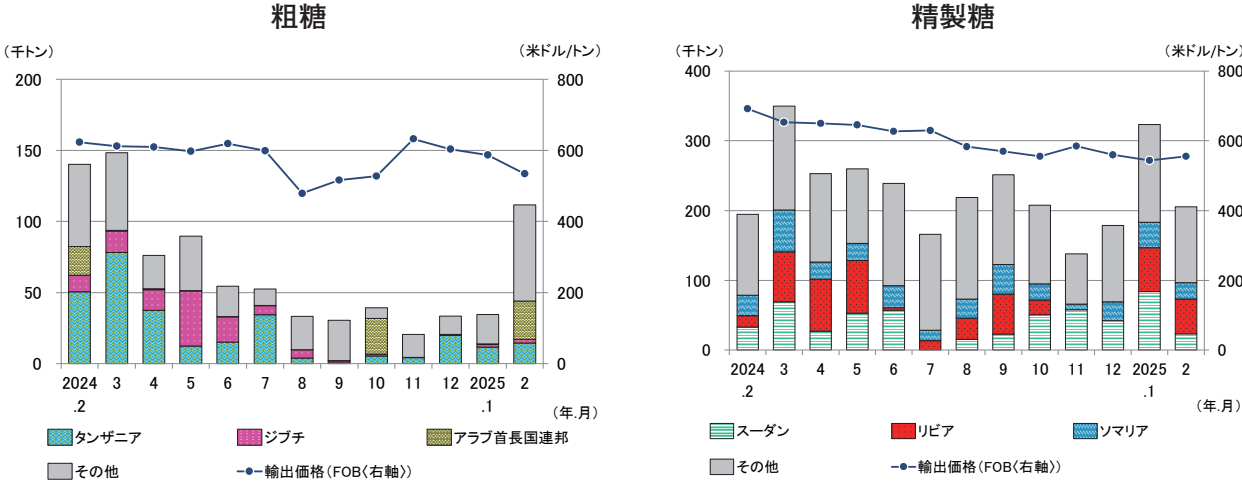
年度	2021/22	2022/23	2023/24	2024/25 (4月予測)	2024/25 (5月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	5,222	5,441	5,544	5,028	5,028	▲ 9.3%
サトウキビ生産量	481,599	455,898	444,739	394,704	394,704	▲ 11.3%
砂糖	生産量	38,559	35,389	27,949	27,949	▲ 19.4%
	輸入量	427	1,687	2,679	2,701	▲ 13.7%
	消費量	29,516	30,078	30,877	30,456	▲ 1.4%
	輸出量	12,468	8,646	4,378	3,616	▲ 17.4%
	期末在庫量	6,473	4,824	7,376	3,575	▲ 46.4%
	期末在庫率	15.4	12.5	20.9	10.4	11.6
						9.3ポイント減

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2025」

注1：2022/23年度および2023/24年度の数値は推定値、2024/25年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。

E U

2024/25年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：157万ha（前年度比8.3%増）

生産量：1億1638万トン（同5.9%増）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1737万トン（同5.9%増）

輸出量：220万トン（同0.5%増）

2024/25年度のてん菜生産量はやや増加の見込み

2024/25年度（10月～翌9月）のてん菜収穫面積は、生産量上位国であるフランス、ドイツ、ポーランドを中心に各国で増加が見込まれることから、157万ヘクタール（前年度比8.3%増）とかなりの

程度増加が見込まれている（表）。てん菜生産量は、作付面積の増加と収穫後期の好天により1億1638万トン（同5.9%増）とやや増加が見込まれている。

砂糖生産量は、てん菜の増産を背景に1737万トン（同5.9%増）とやや増加が見込まれている。砂糖輸出量は、砂糖の増産により220万トン（同

0.5%増)とわずかに増加が見込まれている。一方、
輸入量は133万トン（同39.1%減）と大幅な減少
が見込まれている。

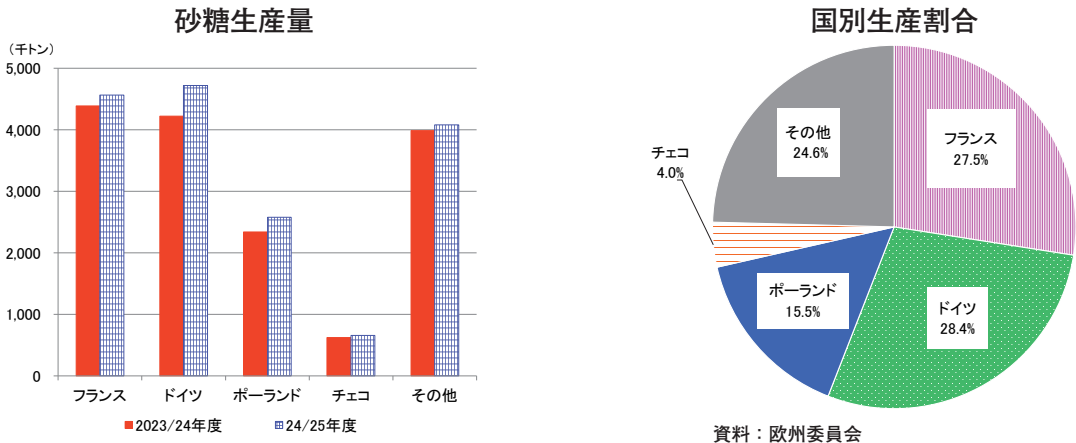
表 EUの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度		2021/22	2022/23	2023/24	2024/25 (4月予測)	2024/25 (5月予測)	前年度比 (増減率)
てん菜収穫面積		1,454	1,398	1,447	1,568	1,568	8.3%
てん菜生産量		111,391	99,760	109,898	116,037	116,383	5.9%
砂糖	生産量	17,330	15,480	16,400	17,370	17,370	5.9%
	輸入量	2,144	3,267	2,180	1,288	1,329	▲ 39.1%
	消費量	17,971	17,237	16,344	16,876	16,887	3.3%
	輸出量	1,251	914	2,189	2,196	2,199	0.5%
	期末在庫量	1,580	2,177	2,225	1,879	1,837	▲ 17.4%
	期末在庫率	8.2	12.0	12.0	9.9	9.6	2.4ポイント減

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2025」
注1：2022/23年度および2023/24年度の数値は推定値、2024/25年度の数値は予測値。
注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) EUの砂糖生産量および国別の生産割合の見通し（2024/25年度）（2025年4月時点）



豪 州

2025/26年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：35万ha（前年度同）

生産量：2940万トン（前年度比5.8%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：400万トン（同6.0%増）

輸出量：300万トン（同7.8%増）

2025/26年度の砂糖生産量と輸出量はかなりの程度増加する見込み

2025/26年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、35万ヘクタール（前年度同）と前年度並みが見込まれている（表）。サトウキビ生産量は、一定の労働力が確保され、前年度と比較してより生育に適した季節的条件が整うとの見通しから、2940万トン（前年度比5.8%増）とやや増加が見込まれている。しかし、2025年1月末以降にサトウキビ生産の9割を占めるクイーンズランド州では豪雨による洪水が発生しており、年間約450万トンのサトウキビが収穫される同州ハーバート地域では、最大100万トンのサトウキビの収穫機会が喪失したともされている（注）が、洪水被害の影響はサトウキビの収穫開始までは十分に把握できないとされている。さらに、サトウキビが新植される場合には十分なサトウキビの成長期間を確保するために、

25/26年の収穫が12月の収穫期終了間際まで続く可能性が高いと見込まれている。

砂糖生産量は、サトウキビの増産などにより400万トン（同6.0%増）とかなりの程度増加が見込まれている。砂糖輸出量は、アジア地域向けを中心に引き続き多くの需要があることから、300万トン（同7.8%増）とかなりの程度増加が見込まれている。

（注）クイーンズランド州の洪水被害の詳細については、2025年2月14日付け海外情報「主産地での洪水によりサトウキビ生産に大きな被害（豪州）」＜https://www.alic.go.jp/chosa-c/joho01_004033.html＞、3月12日付け海外情報「豪州、砂糖の中期的見通しと洪水被害の状況（豪州）」＜https://alic.go.jp/chosa-c/joho01_004056.html＞、3月26日付け海外情報「洪水被害を受けたサトウキビ生産者に対し、追加支援を決定（豪州）」＜https://alic.go.jp/chosa-c/joho01_004071.html＞をご参照ください。

表 豪州の砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

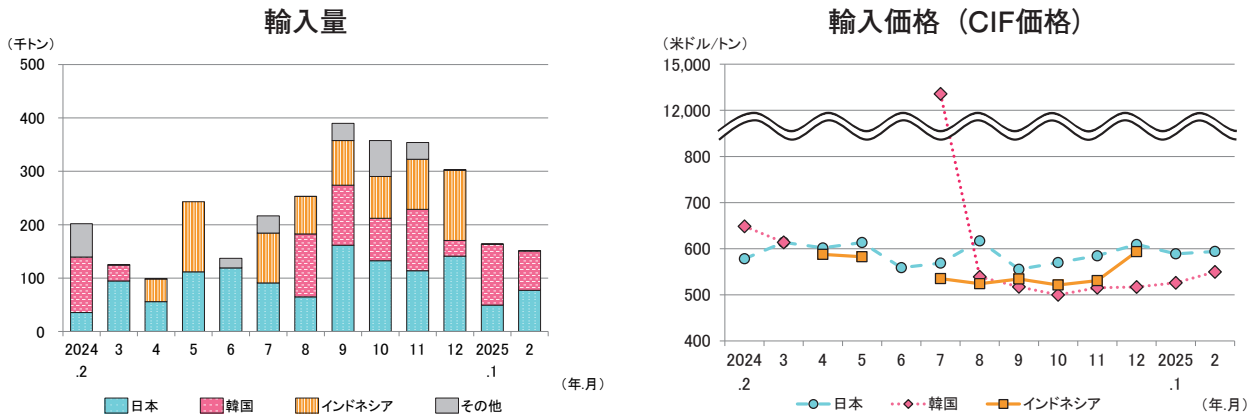
年度	2022/23	2023/24	2024/25	2025/26 （4月予測）	2025/26 （5月予測）	前年度比 （増減率）
サトウキビ収穫面積	331	341	345	345	345	0.0%
サトウキビ生産量	32,593	29,274	27,780	29,400	29,400	5.8%
砂糖	生産量	4,298	4,128	3,779	4,004	6.0%
	輸入量	8	10	9	9	5.8%
	消費量	996	995	1,005	1,014	0.9%
	輸出量	2,942	3,356	2,782	2,999	7.8%
	期末在庫量	1,180	966	967	967	▲ 0.0%
	期末在庫率	30.0	22.2	25.5	24.1	1.4ポイント減

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2025」

注1：2023/24年度および2024/25年度の数値は推定値、2025/26年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 主要国の豪州産砂糖（粗糖）の輸入量および輸入価格の推移



資料：輸入量はGlobalData UK Ltd.「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2025」、輸入価格は「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）の数値。

注2：直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域とその他の輸入量を表示。

その他は上位3カ国・地域を除いた国・地域の合計。

ただし、GlobalData UK Ltd.の資料に掲載されている国・地域となる。

注3：豪州の輸出に関する月別の統計情報は公表されていないため、主要輸入国の月別の輸入に関する統計情報に基づき作成。

注4：韓国の2024年4月、5月、6月の輸入量は実績なし。24年7月の輸入量は、千トン未満。

注5：インドネシアの2024年2月、3月、6月、25年1月、2月の輸入量は実績なし。

タイ

2024/25年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：167万ha（前年度比10.0%増）

生産量：9210万トン（同12.1%増）

【砂糖（甘しゃ糖）】

生産量：1057万トン（同13.5%増）

輸出量：778万トン（同32.1%増）

2024/25年度の砂糖生産量はかなり大きく、輸出量は大幅に増加する見込み

2024/25年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、167万ヘクタール（前年度比10.0%増）とかなりの程度増加が見込まれている（表）。サトウキビ生産量は、収穫面積の増加と良好な気象条件により9210万トン（同12.1%増）とかなり大きな増加が見込まれている。現地報道によると、24/25年度のサトウキビの圧搾は4月8日に終了したとされている。また、サトウキビ・砂糖委員会事務局（OCSB）が焼き畑^{（注1）}で収穫されたサトウキビを減らすための取り組みを推進したことで、焼き畑のサトウキビ収穫割合は15%程度に抑えられたとされている。

砂糖生産量は、サトウキビの増産とCCS^{（注2）}の

増加により、1057万トン（同13.5%増）とかなり大きく増加することが見込まれている。砂糖輸出量は、インド産やブラジル産の輸出量減少が見込まれる中、砂糖の増産を背景に778万トン（同32.1%増）と大幅な増加が見込まれている。特にタイの主要輸出先であるインドネシアでは、ラマダン（断食月：25年は2月28日から3月29日まで）に先立ち国内の砂糖価格が上昇したことで、砂糖輸入量が増加している。

（注1）サトウキビの梢頭部や葉を燃やした後に収穫する方法。

（注2）可製糖率：サトウキビのショ糖含有率、繊維含有率および搾汁液の純度から算出される回収可能な糖分の割合。

表 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

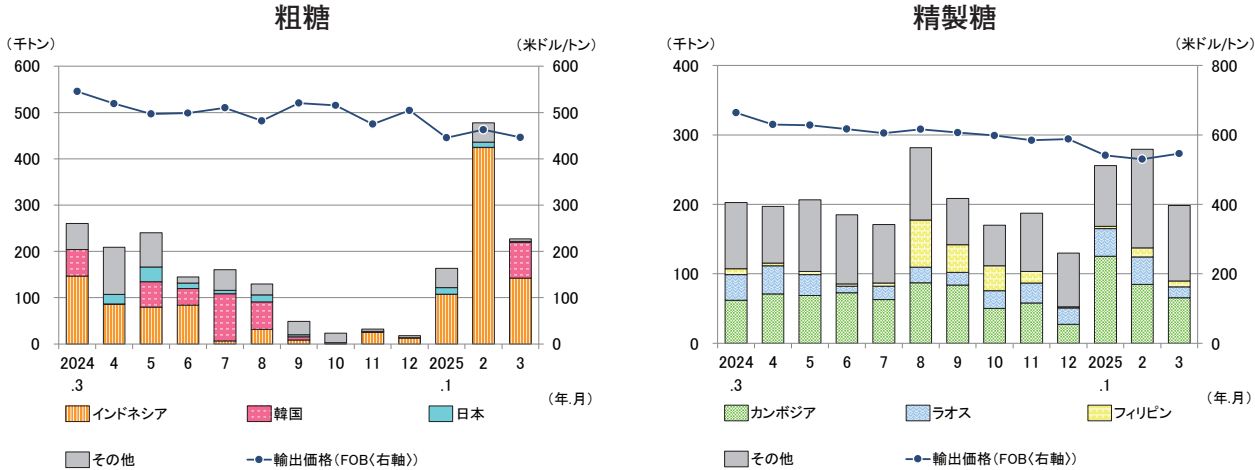
年度	2021/22	2022/23	2023/24	2024/25 (4月予測)	2024/25 (5月予測)	前年度比 (増減率)
サトウキビ収穫面積	1,525	1,514	1,518	1,670	1,670	10.0%
サトウキビ生産量	91,145	93,888	82,167	92,100	92,100	12.1%
砂糖	生産量	10,643	11,688	10,574	10,574	13.5%
	輸入量	148	317	425	425	71.0%
	消費量	3,424	3,348	3,186	3,219	1.0%
	輸出量	7,867	8,002	5,888	7,776	32.1%
	期末在庫量	1,951	2,605	3,095	3,099	0.1%
	期末在庫率	17.3	23.0	34.1	28.2	5.9ポイント減

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, May 2025」

注1：2022/23年度および2023/24年度の数値は推定値、2024/25年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。